

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671700017		
法人名	社会福祉法人 北桑会		
事業所名	グループホーム 美山やすらぎホーム		
所在地	京都府南丹市美山町島小栗栖山13番地の1		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=2671700017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
所在地	京都府京都市右京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和3年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症により家族や地域との交流が思うように持たず不安の多い状況が続いていますが、自然豊かな環境を生かした散歩や野菜作り、歌や体操、レクリエーションなどで気分転換を図っています。また、地域の方からお手紙やお花を届けて頂いたり、地域で作られたパンやケーキ、お弁当を味わったりすることで、住み慣れた地域での暮らしの温もりを感じていただけるよう努めています。利用者の安全を守り、利用者、家族、職員が共に笑顔多く過ごせる事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成6年に社会福祉法人北桑会が運営する高齢者総合施設美山やすらぎホーム(特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、在宅介護支援事業所)を開設されたのち、地域の高齢化に伴い平成27年に同敷地内に開設されたグループホームです。施設全体としては前理事長の思いを大切に、この施設が美山の地で憩いの場となり、各サービスの利用者がくつろいで地域と共に生活を送っていただけるように事業運営をすすめています。利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向は「暮らしの情報シート」を活用することで小さな喜びや楽しみを積み重ねていけるよう努めています。コロナ禍においても地域との交流を継続できるよう、コロナ禍の中でできることを事業所の方針をもって実践しようと努めています。また、運営推進会議においては駐在所から参加があり、防犯訓練(不審者の侵入対応など)についてアドバイスができること提案されるなど利用者の安全を守る事業所として今後の協力体制が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に支え合い心豊かに落ち着いた生活を目指す」を事業所理念とし、具体的な方針と共に周知し、実践につなげています。	外部評価の受診を機に全職員で事業所独自の理念と5項目の基本方針を策定し、介護計画へ反映してケアの実践に繋げている。運営推進会議や職員会議で共有し、家族への便りに定期的に掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方からお手紙やお花を届けて頂いたり、地域で作られたパンやケーキ、お弁当を購入し、住み慣れた地域での暮らしを感じていただけるよう努めています。	地域の作業所のパンやケーキ店で誕生日ケーキを注文し、美山の店のものであるという話をしながら提供している。地域の小学校とはコロナ前までは来所があり、イベントを見学してもらっていたが、コロナ禍においては職員が出向いていき施設の仕事を案内するなど交流を継続をしている。地域の婦人団体に美化作業をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南丹地域包括支援センターの取り組みであるオレンジガーデニングプロジェクトに参加し、利用者と共にオレンジ色の花を育てて認知症啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より地域の駐在所や消防署の方にも委員としてお世話になり、防災面や緊急時の対応のアドバイスを頂いたり、地域の情報なども得てサービスの向上に活かしています。	コロナ禍においても特養内の大会議室で感染防止に配慮しながら開催し、南丹市担当課、児童民生委員協議会、美山町地域包括支援センター、介護相談員、法人第三者委員、他GH、消防署、駐在所などから参加を得て、情報や意見交換が実施されている。	警察が運営推進会議に参加され、火災や防災の訓練だけでなく防犯訓練(不審者の侵入対応など)についてアドバイスができると提案されていることから、ぜひ実施されて良い事例となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用して行政の方との関わりを深め、認知症相談窓口や災害時の支援対応拠点として協力関係を築いています。	運営推進会議への参加や福祉避難所、認知症相談窓口の指定を受けるなど協力関係を築いている。コロナ前には地域の祭りに協賛し相談コーナーの出店や事業所のケアマネによるサービス紹介などを行っていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月に身体拘束対策委員会を開催し、基礎知識の周知に努めています。また、センサーマットやメロディホンの使用については職員会議で振り返りをし、見守り機器として適切に使用しています。	施設全体と各施設で委員を選出し、施設全体で2ヶ月に1度身体拘束対策委員会を開催している。また、年に2回研修会を実施するなど職員の共有意識を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故・身体拘束対策委員会を設置し、虐待が見過ごされることがないように注意しています。また、研修会の中で高齢者虐待防止について学ぶ機会を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業利用の方はおられませんが、必要な時に対応出来るよう学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の不安をくみ取り、落ち着いた環境の中で丁寧に説明を行ない、疑問点に答えながら、安心と理解を得られるよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ガラス戸越しの面会時や電話にて、家族の思いや意見などを伺えるよう努めています。また、利用者満足度調査を年度末に行なっています。	コロナ禍でも施設内渡り廊下奥のガラス戸越しに面会を実施し、家族の意見や利用者の変化に対する思いや心配について話を聞きとっている。利用者満足度調査を実施し、その結果は渡り廊下に貼りだしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び連絡ノートを活用し、意見や提案を言いやすい雰囲気作りを心掛けています。また、年2回職員面談を行ない、意見などを聞く機会を設けています。	職員会議で協議したい案件を職員会議ノートに記入してもらうようにしている。利用者対応で困っていることや業務、記録様式の見直しの検討などを会議で図り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行ない、職員一人一人の努力や実績を丁寧に把握し、評価に基づいた賞与の支給をして、それぞれのやる気や向上心に繋がるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修に参加したり、介護福祉士試験対策講座の通信学習が受けられるようサポートしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加して情報交換を行なっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安をくみ取り、笑顔での対応を心掛けて安心していただけるよう努めています。また、さりげなく寄り添って会話を積み重ね、本人の思いを丁寧にくみ取れるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を伺い、施設として出来ることと出来ないことをきちんと伝えながらも、誠実な対応を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めがしっかり出来るよう、担当のケアマネや利用されていたサービス事業所からの情報も大切に、必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの職員との信頼関係を丁寧に積み重ね、出来ることはしていただきながら、家庭的な雰囲気大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診については基本的に家族にお願いし、体調や様子を把握していただきながら、家族ならではの温もりのある関係の継続を見守っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症により交流や外出を控えています。馴染みの方からお手紙やお花を届けて頂き、良い関係を継続することが出来ています。	馴染みの美容師に訪問してもらうなど関係が途切れないよう努めている。暮らしの情報シートを活用してコロナ禍の中でできることを事業所の方針をもって実践しようと努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	座席に配慮し、気の合う人同士が共に安心 して過ごせるようにしています。また、豆より 等の共同作業やレクリエーションの中で連帯 感や支え合いも自然と生まれています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動された施設へ時々訪問し、これまでの 馴染みの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	まずは安心していただけるような関わり に努め、少しずつ利用者の思いをくみ取り、言 葉を引き出して記録し、職員で共有していま す。	連絡ノート、暮らしの情報シート、アンケート の調査結果等を活用して生活歴や好きなも のを把握し、小さな喜びや楽しみを積み重ね ていけるよう努めている。普段言われない言 葉を記録に残し共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	暮らしの情報シートを家族に記入してい たり、事業所からの情報や日頃の会話 の中で分かったことを記録して、今までの暮 らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の様子や変化を記録して現 状把握に努め、大きな変化や発見につい てはしっかり職員間で情報共有出来るよう 気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	入所前の面接やアセスメントシートの作成 により介護計画を作成し、定期的なケアカン ファレンスや医療情報、利用者や家族の思 いを確認しながら定期的に見直しを行なっ ています。	毎月開催される職員会議でケアカンファレン スを実施し定期受診の医療情報、利用者や 家族から普段の会話や面会で聞き取った思 いなどを職員間で共有している。6ヶ月毎ま たは変更時に見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を通して情報共有し、職員会議 でのケアプランや対応の見直しに活かして います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問美容を利用した散髪、内科や歯科の訪問診療を受けられるよう支援しています。また、日用品の購入についても家族と相談しながら行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍における地域資源との協働については、ICTの活用を模索し、地域の小学生とオンラインでの交流を予定しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医の受診に家族対応で通院していただき、日頃の様子や気になる所をしっかりと伝達出来るよう連絡ノートを活用しています。往診利用の方には、薬の変更などの状況を家族に知らせています。	本人・家族の希望に添って、入所以前からの主治医を継続している。受診は家族が対応し、普段の様子は受診用の連絡ノートに記入し、変化がわかるように生活情報シートを活用して伝えている。医師や看護師から記入されたコメントは共有している。往診医の場合は職員が対応し、特筆すべきことは電話で家族にも伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談したりアドバイスをを受けたり出来る体制をとり、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行ない、スムーズな退院へとつながられるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針を策定し、事業所として出来ることや出来ないことについて説明を行なっています。また、職員には重度化対応勉強会を行ない、利用者の変化に柔軟に対応出来る人材育成に努めています。	事業所独自の「重度化対応における指針」をもとに入居時にできることとできないことを利用者・家族に説明している。看取りはできない方針となっているため要介護3になれば特養への申請や医療療養型への移行支援を行っている。施設の看取り研修への参加やGH内で年に1回重度化対応の勉強会を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応勉強会を行ない、事例に沿った対応を確認しています。また、事業所間のスムーズな連携が図れるよう、マニュアルの確認を毎年行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のアドバイスをいただきながら年2回の避難訓練を行なっています。災害時の福祉避難所として地域との協力体制を築き、備蓄については3日分準備しています。	年2回昼夜想定で水害・土砂・原発災害の避難訓練を実施している。原発圏内として安定ヨウ素剤服用訓練も実施している。災害時に職員の負担軽減のため利用者の「基本情報提供書(写真付き)」「緊急時医療連携シート」を作成し定期的に見直している。居室には避難完了の確認の札を備え付け災害時速やかに避難誘導する工夫をしている。ヘルメット、リュック等が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議を通して職員それぞれが自分の対応を振り返り、丁寧な声掛けや対応を心掛けています。	職員会議において認知症ケアのポイントについて勉強会を実施し、定期的の中核症状と周辺症状について検討している。また、ベテラン職員から声掛けや名前の呼び方、言葉遣いなどについて意見を聞く機会としている。情報シートを活用して利用者一人ひとりへの言い方に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で信頼関係を積み重ね、安心して自分の思いや希望を表したり、自己決定出来るよう温かく寄り添う支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9名それぞれのペースや思いを大切にし、体調や天候に合わせて、なるべく心豊かに過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選び、利用者が安心して過ごせるよう支援しています。また、散髪や髭剃りにも気を付け、気持ち良く過ごせるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は洗米や盛り付け、食器洗いなどを、日々職員と一緒にいかない活躍されています。畑の野菜を使用したり、利用者の好みのメニューを取り入れた食事作り、出前の注文なども定期的に行なっています。	利用者の状態に合わせてできること(洗米、盛り付け、食器洗いなど)を職員と協力して作っている。月に1~2回メニューから何を食べたいか考えて一から作るようにしている。畑で収穫した野菜を活用したり、地元の米を使う他、住み慣れた地域での暮らしの延長で馴染みの店のパン、ケーキ、弁当を買ったり出前を取ることもある。年に1~2回行事食として配達してもらった弁当は法事を思い出すと好評を得ている。皆で作って皆で食べる楽しみを心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、粥や刻み食などそれぞれの状態に合わせて対応しています。水分についてもこまめに勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の義歯洗浄や洗浄剤の使用を見守り介助しています。口腔状態を随時確認し、必要に合わせて家族と相談の上、歯科往診を受けられるよう支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせたタイミングでトイレに誘い、なるべくトイレで安心して排泄出来るよう見守っています。排泄チェックシートも活用し、特に排便の確認には気をつけて便秘を防げるよう支援しています。	排泄の自立を重視した支援としてできるだけ手を出さず見守るようにしている。具体的には排泄チェックシートから利用者個々の排泄パターンをとらえタイミングをみて声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事の提供、体操や散歩などの運動、適切な薬の服用により、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の確認や声のかけ方に気を付け、入浴を嫌がられた時はタイミングを変えるなどの工夫を図りながら、気分良く入浴を楽しめるよう支援しています。	できるかぎり希望に添った入浴となるようご本人の意思を丁寧に聞いている。拒否のある場合は無理強いをせず、時間や曜日を変えたり、タイミングを計るなど工夫している。声の掛け方にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の保清に気を付け、タオルケットや毛布は馴染みの物を使用いただいています。体調や希望に合わせて居室での休養を見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用について随時学習し、薬の変更時には様子観察をしっかりと行ない、医療との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や出来る事、得意な事を把握し、張り合いのある生活を積み重ねられるよう軽作業や家事に取り組んで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染症により外出は控えていますが、天候や体調に合わせ、自然豊かな戸外を散歩したり、テラスや畑で過ごしたりなどのひと時を大切にしています。	「コロナ禍でできることをしよう」と施設周辺への散歩や、畑の収穫などを積極的に行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったドライブを緊急事態宣言が解除になり紅葉の季節に向けて企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことによるトラブルが予測される為、所持されている方や預かり金制度を利用されている方はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話で遠方の家族と話しが出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広々としており、テラスに繋がる大きな窓からは豊かな自然が眺められ、それぞれが落ち着ける場所で過ごされています。また、畑で育てた花を利用者に活かしていただき飾っています。	木目調で広々として天井が高く圧迫感がなく、地域の方から送られてきた花が飾られるなど落ち着いた雰囲気となっている。採光や照明には気を配るようにしている。カウンターテーブルや洗濯物をたたむ場所、本棚やテレビが2台など一人ひとりが心地よく過ごせるような工夫をしている。一人になれるスペースが所々にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が個別に本を見たり得意な作業が出来るコーナーを作り、思い思いに過ごせるよう工夫しています。また、なるべく気の合う人同士で過ごせるよう、さりげなく座席配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスや椅子などを持参いただき、大切な家族の写真や表彰状を飾ったり等、利用者の宝物のある個室となるよう目指しています。	共用部と同じ作りの木目調で広く落ち着いた居室となっている。人生の詰まった宝物がある空間(部屋)を目指し第二の我が家となるよう心掛けている。飾られた昔の皆勤賞の賞状は会話のツールとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方が多い中、杖や手すりを持って安全に移動出来るような環境作りをし、3か所あるトイレを有効に使いながら、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援しています。		